



MDD

2023 明治安田生命 J1 LEAGUE

2023明治安田生命J1リーグ第22節
@ 駅前不動産スタジアム

MATCHDAY PROGRAM
サガン鳥栖オフィシャルマッチデープログラム

2023 Season | VOL 15

Sagantosu

08.06 [SUN]
[TUE]

19:00 KICK OFF
vs アビスパ福岡



©1995 FUKUOKA BLUX CO., LTD.

ピッチに足を踏み入れるとき、朴一圭の気持ちを奮立たせる光景がある。サガン鳥栖に染まるスタンドの中で違う輝きを放つ蛍光イエロー、自身も身にまとうゴールキーパーのユニフォームのカラーだ。「自分でも驚くくらいゴールキーパーのことを応援してくださる方が多いし、それくらい蛍光イエローのユニフォームの方が多い」。チームカラーと言えば、一般的にはフィールドプレイヤーたちが身にまとうユニフォームの色だ。決して安いとは言えない買い物になる中でチームカラーのユニフォームを買うのが当然の流れだろう。それでも、試合時のスタンドには少なくない数の蛍光イエローが見える。「僕を含めたゴールキーパーチームへの期待を感じますし、あの光景を見ると毎試合、身が引き締まる思いになります」。自分にかかれるサポーターからの期待は「それに応えてみせる」という責任へとつながる。だからこそ、その目に飛び込んでくる蛍光イエローは背番号71にこれ以上ない勝利へのモチベーションをもたらしている。

サガン鳥栖加入以来、昨季まで背負っていた背番号を40から今季は71に変更した。クラブにとって意味のある『17』を逆にしたものだが、サポーターに最も近い位置でその背中を見ることが多いのがゴールキーパーというポジション。「特別なものを背負って自分にさらにプレッシャーをかけたいと思った」。期待も責任もありとあらゆるものを背負って自分自身の力に変えていけるのが朴の強さでもある。今節はクラブ同士の意地と誇りがぶつかり合う九州ダービー、ほかのどんな試合よりもサポーターから「勝利」への期待が注がれる戦いだ。「僕のユニフォームを着てくれる方々も、鳥栖というクラブが好きで、鳥栖が勝つことが一番の喜びのはず。そういう方々が笑ってスタジアムから帰れるようにプレーしたい」。期待はどれだけ注いでもらってもいい。サポーターの目の前に立つ『1』と『7』を着けたその背中中は熱いプレーでその責任を果たしてみせる。

71
GK
PARK II Gyu

信を起こす頼もしき背中、

「1」と「7」を
背負う覚悟

matchday program presents

Jリーグタイトルパートナー 明治安田生命佐賀支社 presents

「みんなの健活プロジェクト」「地元の元気プロジェクト」記念マッチ